

設計住宅性能評価の申請要領

アール・イー・ジャパン株式会社

制定 2005. 10

改訂 2006. 3

最終改訂 2011. 2

.

1】 設計住宅性能評価の申請について

申請者は、アール・イー・ジャパン株式会社（以下「REJ」という。）（登録住宅性能評価機関）に設計住宅性能評価（日本住宅性能表示基準（H13 国交告第 1346 号 最終改正H18 国交告示第 1129 号）に従って表示すべき性能に関し、評価方法基準（H13 国交告第 1347 号 最終改正H21 国交告示第 354 号）に従って評価することをいう。）を受けようとする場合、所定の書類を作成し、評価料金を添えて申請をしてください。

2】 申請に必要な書類・必要部数

（H12 建告第 1660 号 最終改正H22 消費・国交告示第 1 号）による

1. 設計住宅性能評価申請書 （住宅の品質確保促進法施行規則別記第四号様式） ※ただし二面から四面は別の書面をもって代えることは可			正、副計 2 部
2. 委任状（手続きに関する要旨）			正、副計 2 部
3. 自己評価書			正、副計 2 部
4. 設計内容説明書	【一戸建て】	在来用	正、副計 2 部
		2×4用	
		鉄骨造用	
		RC 用	
	【共同住宅用】	在来用	
		2×4用	
RC・S・SRC 用			
5. 特別評価方法認定による場合は建設大臣の認定書の写し（該当する場合に限る。）			正、副計 2 部
6. 特別評価方法認定を用いて評価される事項を記載した書類（該当する場合に限る。）			正、副計 2 部
7. 住宅型式認定をうけた住宅又は住宅型式性能認定を受けた住宅は住宅型式性能認定書の写し（該当する場合に限る。）			正、副計 2 部
8. 認証型式住宅部分等又は認証型式住宅部分等を含む住宅は型式住宅部分製造者等認証書の写し（該当する場合に限る。）			正、副計 2 部
9. 設計評価添付図書（申請用設計図書及び各種計算書（H12 建告第 1660 号）			正、副計 2 部

<p>※ 設計変更の場合</p> <p>1. 変更設計住宅性能評価申請書（施行規則別記第五号様式）</p> <p>2. 直前の設計住宅性能評価の結果が記載された設計住宅性能評価書又はその写し</p> <p>3. 書面及び図面の変更部分をマーキング等で表示してください。</p>	<p>正1部</p>
<p>※ 確認済証の写し及び確認申請書の第1面から第5面の写し 建築基準法第6条第1項の規定による確認を要しない住宅以外の住宅に限る。</p> <p>（設計住宅性能評価書の交付までに添付）</p>	<p>正1部</p>

- 申請書は、A4のチューブファイル又は、紙ファイルで申請書折して提出してください。
- ファイルの正面に、物件名称・申請者氏名・正本副本の別を記入してください。
- 建築確認申請書と併願であっても、添付図書の省略はできませんのでご了承ください。

3】設計住宅性能評価申請の引き受けについて

- 1) **評価料金**は、弊社業務規程で定めた額を、契約時までに現金又は指定の口座までにお振り込みください。
- 2) **評価料金**納付の確認をしましたら、当社規定の設計評価申請引受書兼領収書を建築主に交付します。
- 3) 引受け時に、提出された図書が下記のいずれかに該当する場合は、補正を求めますが、それに応じない場合等は、設計住宅性能評価申請書を引受けできない通知【規則第六号様式】を出させていただきますのでご注意ください。
 - ① 設計図書に形式上の不備又は記載事項が不十分であるとき。
 - ② 申請書又はその添付図書の内容が明らかに虚偽である場合。
- 4) 業務期日は、業務を引き受けた日の翌日から起算した日が21日を過ぎるまでの間の日。（期日が、規程第3条第2項に定める休日の場合は、その翌日。）ただし補正等により費やした日数を除きます。
- 5) 手数料の返還は、REJの責による場合を除き、返還はいたしません。

4) 設計住宅性能評価申請添付図書の種類と表示方法の例

(共同住宅等の表示方法は、「共」と表示)

□意匠関係図			
添付図書	性能表示事項		明示する内容
付近見取り図（案内図）			1/2,500 地図程度のものを添付してください。
配置図	2. 火災の安全	2-5・-6 耐火等級	敷地境界線、道路境界線、延焼のおそれのある部分明示
	4. 維持管理	4-2 共用配管「共」	外部桧の位置（専用配管との接続部から建物外部の最初となる部分の桧）
仕様書（仕上表を含む）			
	2. 火災の安全	2-6 開口部以外	外壁、軒裏の構造・仕様、認定番号、耐火時間
	3. 劣化の軽減	3-1 構造躯体等	セメントの種類、コンクリート・鉄筋等の使用材料の規格、かぶり厚さ、スランプ・単位水量・空気量
	5. 温熱環境	5-1 省エネ対策	断熱材の種類・厚さ・使用部位、「設計施工指針（断熱材・機密材の施工基準）」の記載 ← 熱貫流率による場合
	6. 空気環境	6-1 ホルムアルデヒド対策	特定建材の使用部分、ホルム発散等級の明示
		6-2 居室換気対策	機械換気（換気方法、換気設備の種別、ドアのアンダーカット）
		6-2 局所換気対策	換気設備の種別
	8. 音環境 【選択項目】	8-1・-2 音遮断対策 「共」	スラブの種類・床仕上の種類・構造（床断面構成）
		8-3 透過損失等級 「共」	サッシ及びドアセットの遮音性能
各階平面図（一戸建ての住宅は、平面詳細図で表示してください。）			一般事項（住戸タイプ記号、住戸番号、部屋名、真北方位等の記入）
	2. 火災の安全	2-3 避難・安全対策「共」	住戸位置の表示、吸気口・排気口の位置、排煙設備の設置場所、バルコニーの位置・形状・避難通路に面する開口部位置・防火設備種類・性能・認定番号
		2-4 脱出対策「共」	避難口・避難ハッチ・避難器具等の位置・種類
		2-5 開口部	延焼の恐れのある部分の範囲、開口部位置・防火設備種類・性能・認定番号

		2-7 界壁・界床 「共」	界壁の位置・厚さ、外壁・界壁の耐震スリットの位置
	4. 維持管理	4-2 共用配管 「共」	ピットの位置、人通口の位置・寸法
	8.音環境 【選択項目】	8-1・-2 音遮断対策 「共」	受音室の位置・面積、スラブの端部拘束条件、スラブの種類、床仕上げの種類・構造（床断面構成）
		8-3 透過損失等級 「共」	界壁の位置・構造・仕様・厚さ、サッシ及びドアセットの遮音性能
	9. 高齢者配慮	9-1 専用部分	床レベル、廊下有効幅員、開口部有効幅、手すりの位置・高さ、落下防止手摺高さ（バルコニー、内部階段）
		9-2 共用部分「共」	床レベル（共用玄関、共用通路、玄関ホール、外部廊下）、スロープ勾配、有効幅員（外部廊下、共用通路、階段、スロープ）、手すりの位置・高さ、腰壁高さ、落下防止手摺高さ（共用通路、外部廊下、内部階段、外部階段、ｽｰﾌﾟ）、ELVホール幅・奥行き寸法、ELV内法寸法（開口幅、かご奥行き）
	10.防犯	10-1 開口部の進入対策	住戸の出入口及びバルコニーの位置
立面図（2面以上）			一般事項（外壁、軒裏の仕上げ、開口部の表示）
断面図又は矩計図			一般事項（住戸タイプ記号、住戸番号、部屋名等の記入）
	2. 火災の安全	2-7 界壁・界床 「共」	界壁界床の位置・厚さ、外壁・軒裏の構造・仕様
	5. 温熱環境	5-1 省エネ対策	断熱材の使用範囲の明示・種類・厚さ←熱貫流率による場合
	9. 高齢者配慮	9-1 専用部分	バルコニー・窓等の落下防止手摺高さ、腰壁高さ、出入口の敷居のまたぎ高さ
			住戸内の床レベル、バルコニーの出入口の段差の位置・寸法
		9-2 共用部分 「共」	共用廊下の手摺の位置・高さ、腰壁高さ、落下防止手摺高さ
	10.防犯	10-1 開口部の進入対策	・地面及びバルコニー若しくは共用廊下から開口部下端の高さ ・バルコニーの外の開口部までの離隔距離
平面詳細図			一般事項（住戸タイプ記号、住戸番号、部屋名、真北方位等の記入）
			反転タイプの場合キープラン
	2. 火災の安全	2-2 感知警報装置	感知器、警報機の取り付け位置・種類・仕様・

		「共」	検定番号等
		2-5 脱出対策「共」	バルコニー隔板、避難ハッチ、避難器具等の取り付け位置・寸法・種類
4. 維持管理	4-1 専用配管		配管取り出し口・立管の位置、掃除口（トラップ）・点検口の位置・寸法
			設備機器、バルブ・ヘッダーの位置
	4-2 共用配管「共」		PSの位置、立管の位置、掃除口・点検口の位置
5. 温熱環境	5-1 省エネ対策		断熱材の使用範囲の明示・種類・厚さ←熱貫流率による場合
6. 空気環境	6-1 木質建材対策		特定木質建材の仕様部位明示（多種使用の場合は使用建材毎）・材種・仕様、内装材（仕上げ材が製材又は特定建材である場合）である造作家具、収納の材種・仕様
	6-2 居室換気対策		機械換気（換気設備の設置位置・端末換気口の設置位置・ダクトの位置）
	6-3 局所換気対策		換気設備の設置位置、換気の出来る窓の位置
7. 光、視環境	7-1 単純開口率		居室床面積（単位㎡）、居室の開口部の寸法、単純開口率の計算式
	7-2 方位別開放比		開口部の方位の表示
8. 音環境 【選択項目】	8-1 重量床衝撃音対策「共」		スラブの端部拘束条件（梁位置の表示）
	8-3 界壁「共」		界壁に設置されるコンセントBOX、スイッチBOXその他これに類するものの設置位置
9. 高齢者配慮	9-1 専用部分		日常生活空間の部屋名記入（特定寝室の明示）
			日常生活空間の廊下幅、出入口の有効幅
			（引戸は建具の引き残し、開き戸は建具の厚みを考慮した通行上有効な寸法）
			床レベル表示（ポーチ、沓摺、玄関土間、上がり框、廊下、居室、和室、浴室、洗面所、便所）、出入り口のまたぎ高さ（玄関、浴室、脱衣室、便所、バルコニー）
			手すり位置・取り付け高さ、手すり設置可能な要件（下地等の表示）の明示
			転落防止用手摺の高さ、腰壁・窓台高さ、手摺子の有効内法（バルコニー、窓）

			便所の内法寸法・大便器の様式（和式 or 腰掛け式）、浴室の内法寸法
			特定寝室の部屋面積（※内法面積）
			住戸内階段（ある場合に限る） 階段の勾配、蹴上、踏面、幅員、蹴込み寸法、蹴込み板の有無、手摺高さ・位置
	10.防犯	10-1 開口部の進入対策	・住戸の出入口及びバルコニーの位置 ・地面及びバルコニー若しくは共用廊下から開口部下端の高さ
展開図「共」 ※ 必須ではない。	6. 空気環境	6-1 ホルムアルデヒド対策	特定建材の使用部位明示（多種使用の場合は仕様建材毎）・材種・仕様
			内装材（仕上げ材が製材等又は特定建材である場合）である造作家具
			収納の材種・仕様
建具表「共」 ※ 必須ではない。			一般事項（建具番号、位置、寸法の記入）
	2. 火災の安全	2-5・-6 耐火等級	防火戸、防火設備の仕様（材質）・防火性能・認定番号
	5. 温熱環境	5-1 省エネ対策	ガラス仕様・気密等級、熱貫流率
			付属部材（レースカーテン、内付・外付ブラインド、障子等）の有無
	6. 空気環境	6-1 ホルムアルデヒド対策	建具（枠材含む）に使用されている特定建材の材種
		6-2 自然換気	ホルムアルデヒド放散等級 アンダーカットの有無、有効換気開口の位置・寸法・面積
	7. 光、視環境	7-1 単純開口率	建具の採光寸法・面積
	8. 音環境	7-2 透過損失等級	建具の遮音等級（JIS規格）、認定番号等
10.防犯	10-1 開口部の進入対策	・地面及びバルコニー若しくは共用廊下から開口部下端の高さ ・内接寸法の表示（長編が400mm、短編が250mmの長方形・長径400mm、短径300mmの楕円・直径が350mmの円） ・ロック機能を有するクレセント等の締り錠及び補助錠の表示 ・進入防止策（シャッター、雨戸、面格子）の表示	
階段詳細図「共」 ※ 必須ではない。	9. 高齢者配慮	9-1 専用部分	階段の蹴上・踏面・蹴込み寸法、階段勾配、階段有効幅員、蹴込み板の有無
			手摺（腰壁）取付け高さ

部分詳細図「共」			平面詳細図、矩計図等で評価項目事項を記載できない場合添付
各種計算書・説明書			「カタログ等」
6. 空気環境	6-1 木目アルミビド対策	特定建材使用部分の面積計算書 (※1㎡以下又は使用面積1/10以下となる特定建材の面積計算含む)	
	6-2 全般換気対策	自然換気の場合：有効開口面積の計算式、自然給排気口設置計算式(又は実開口部面積計算式) 機械換気の場合：有効開口面積の計算式、換気回数計算式	
7. 光、視環境	7-1 単純開口率	単純開口率計算式(居室床面積計算式、居室開口面積計算式)：小数点第1位切り捨て、整数表示	
	7-2 方位別開放比	方位別開口比計算式(居室床面積計算式、方位毎の開口面積計算式)：小数点第1位切り捨て、整数表示	
8. 音環境【選択項目】	8-1 重量床衝撃音対策「共」	居室毎(端部拘束条件表示)の等価厚さ計算式並びに受音室面積	
	8-1 重量床相当スラブ厚「共」	相当スラブ厚の計算式	
	8-2 軽量床衝撃音対策「共」	等価厚さ(床構造区分)計算式及び床仕上げ構造区分の表示	
	8-2 軽量床相当スラブ厚「共」	居室毎の等価厚さ	
9. 高齢者配慮	9-1 専用部分	「通路及び出入口の幅員」「便所」の工事を伴わない撤去、軽微な改造により確保できる部分の長さの具体的説明等	
その他			必要に応じて使用等の記載のあるカタログ・説明書等を提出する場合があります。
□構造関係設計図書			
特記仕様書	1. 構造の安定	1-1・-2・-3・-4 耐震、耐風、耐雪	材料強度・設計強度の指定及び品質管理方法(検査・試験等)の指定
		1-5 許容支持力等	地盤調査報告書などから算出される支持力のおおきさと、その設定方法
		1-6 基礎構造方法・形式	基礎種別(直接基礎・杭基礎等)、基礎仕様(基礎形式、杭工夫、杭径、杭長、杭種の表示)
	3. 劣化の軽減	3-1 鉄筋コンクリート造	コンクリート強度、セメントの種類、かぶり厚、水セメント比、スランプ値、単位水量、空気量の指定数値
			施工計画(コンクリート打設方法・施行誤差の許容範囲寸法、打ち継ぎ部の処理方法、養生等)

杭伏図・基礎伏図	1. 構造の安定	1-6 構造方法及び形式	直接基礎（材料・形状・寸法）、杭基礎（杭種・杭径・杭長・位置）
	4. 維持管理	4-2 共用配管の維持管理	人通口・点検用ハッチの位置・寸法、配管用スリーブ位置・寸法
軸組図	2. 火災の安全	2-6 耐火等級	外壁・界壁の耐震スリットの位置、耐火仕様、認定番号
各階伏図、断面図	1. 構造の安定	1-6 構造方法及び形式	構造躯体（柱・梁・スラブ・界壁）の材料・形状・寸法・位置
	8. 音環境【選択項目】	8-3 界壁「共」	構造躯体（柱・梁・スラブ・界壁）の材料・形状・寸法・位置
構造計算書	1. 構造の安定	1-1・-2・-3・-4 耐震、耐風、耐雪	適用倍率の表示、耐震・耐風・耐雪の計算（検証）
		1-5 許容支持力等	地盤の許容支持力又は杭の許容支持力の設定根拠
□設備関連設計係図書			
空調設備関係図書	6. 空気環境	6-2 全般換気対策	機械換気設備の使用・位置・ダクト経路（給排気口の位置・寸法表示）
			局所換気設備の仕様、位置
衛生設備関係図書	4. 維持管理	4-1・-2 専用・共用配管	専用部分と共用部分の分岐となる接合部、メーター等の明示
			配管種別・仕様（材質）・配管系統（タテ・ヨコ）・主要な接合部・ヘッダー・バルブの表示、掃除口位置、点検口位置
			さや管使用の有無（使用する場合位置・寸法）
電気設備関係図書	2. 火災の安全	2-2 感知警報装置	感知警報設備種別（自動火災報知設備、共同住宅用自動火災報知設備、住戸用自動火災報知設備等）
			感知器、警報機の取付け位置・種類・仕様・検定番号等
			住戸内システム系統図（配線図）、建物内システム系統図（配線図）

【上記 注意事項】

1 設計図書の作成

建築主及び設計者は各項目の等級の条件、仕様をもとに実施設計を行い、設計図書及び各種計算書等の作成してください。

2 自己評価書の作成（全住戸タイプに対して作成）

自己評価書は設計図書の内容を反映し作成してください。

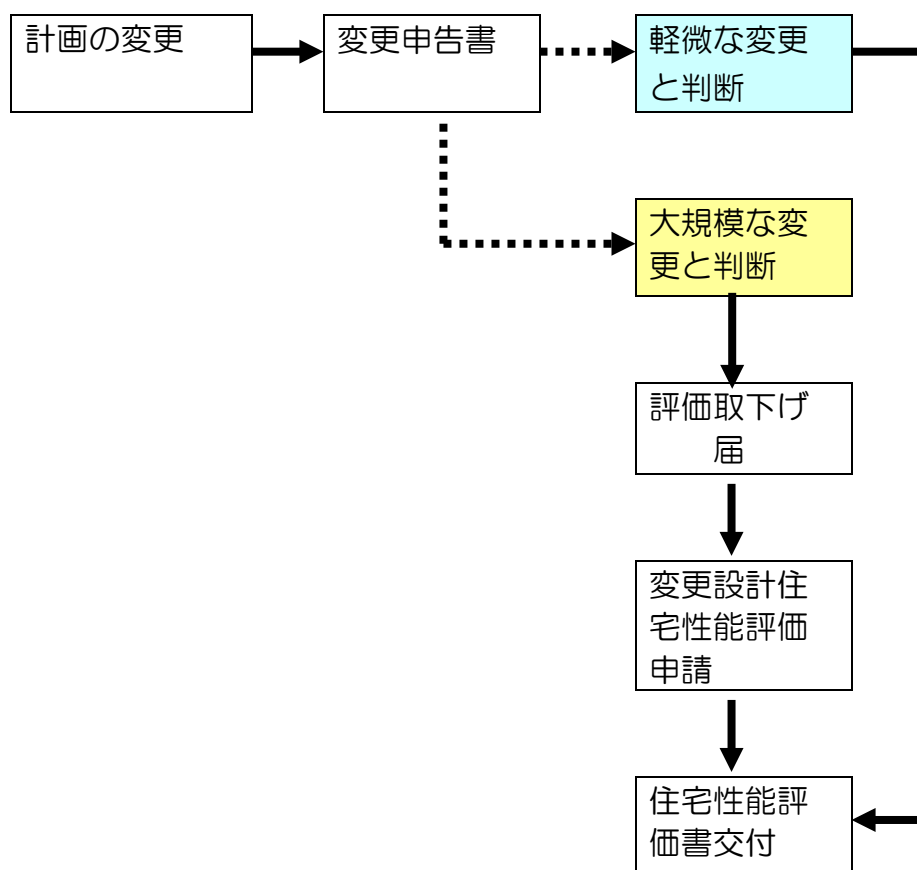
（音環境については申請者の選択事項です。）

3 設計内容説明書の作成（全住戸タイプに対して作成）

設計内容説明書は設計図書の内容を反映し作成してください。

5) 設計住宅性能評価書交付前の変更について

- 1) 同じ等級内の変更などの部分的な変更で、基準との照合が容易な変更（変更後の審査が簡単にできる場合）は、変更申告書【REJ評第二号様式】及び変更関係図書をREJに提出することで、引き続き設計住宅性能評価を受けることができます。
- 2) 評価等級の異なる変更、又は同じ等級でも基準との詳細な照合が再度必要になる等、その計画変更が大規模な場合については、評価取下げ届【REJ評第一号様式】で当初の設計住宅性能評価申請を取り下げ、改めて別件として設計住宅性能評価の申請をお願いします。



6) 設計住宅性能評価書交付後の計画変更について

- 1) 同じ等級内の部分的な変更で、基準との照合が容易な変更（変更後の検査ができ変更状況を容易に確認できる場合）は、変更申告書【REJ評第二号様式】及び変更関係図書をREJに提出し、建設評価を受けることができます。

2) 評価等級の異なる変更、又は同じ等級でも基準との詳細な照合が再度必要になる変更については、変更設計住宅性能評価申請をしてください。変更設計図書の再評価がなされ、変更設計住宅性能評価書が交付されるまで、当該対象工事は着手できません。

7) 業務期日の延長について

申請図書の変更がある場合、申請図書の内容に不備がある場合で指定した期日までに申請図書の訂正、追加等がなされない場合等については、REJは理由を明示の上、業務期日の延長をお願いすることがあります。

8) 設計住宅性能評価書の交付について

審査の終了後、建築基準法第6条第4項又は、同法第6条の2第1項による確認済証の写し（原本照合を要す。ただし建築基準法第6条第1項の規定による確認を要しない住宅以外の住宅に限る。）の提出を確認した段階で、設計住宅性能評価申請書の副本を添えて設計住宅性能評価書を建築主に交付します。

9) その他

下記のいずれかに該当する場合は、規則第4条第2項の規定に基づき、設計住宅性能評価書を交付できない通知を出させていただきますのでご注意ください。

- ① 設計図書に形式上の不備又は記載事項が不十分であるとき。
- ② 申請書又はその添付図書の内容が明らかに虚偽である場合。
- ③ 建築基準法第6条第1項の建築基準関係規定に適合しない場合。

設計住宅性能評価書を滅失・汚損・破損した場合は、設計住宅性能評価書再交付の申請ができます。【REJ 評第三号】※1件あたり1,000円申しつけさせていただきます。